

2023年 3月期 第2四半期 決算説明資料

誇れる歴史がある
創りたい未来がある



株式会社 浅沼組
東証プライム市場
証券コード：1852

この資料には、当社の業績予測並びに将来の見通しに関する記述がございます。
これらの記述は、現在入手可能な情報及び将来に影響を与える不確実な要因に係る仮定に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく記載と異なる結果になる可能性があります。

誇れる歴史がある
創りたい未来がある



ページ	項目
P 3	2023年3月期 連結 第2四半期 前期比・計画比
P 4	2023年3月期 連結 第2四半期 進捗
P 5	2023年3月期 第2四半期 受注状況
P 6	中期3ヵ年計画の主な施策
P 7	リニューアルの現況
P 8	『ReQuality』の推進
P 9	リニューアル技術の高度化
P 10	ASEAN地域におけるリニューアル強化
P 11	協力会社との協働推進
P 12	D X 推進について
P 13~14	エコフレンドリーASANUMA 2.1の取り組み①②
P 15	サステナビリティの推進
P 16	Topics

2023年3月期 連結 第2四半期 前期比・計画比

(単位：億円)

主な経営指標	2022/3期	2023/3期			
	2 Q実績	2 Q計画	2 Q実績	前期比	計画比
受注高	590	—	683	93	—
完成工事高	592	636	656	64	20
完成工事粗利益	55.8	56.4	63.8	8.0	7.4
完成工事粗利益率	9.4%	8.9%	9.7%	0.3P	0.9P
営業利益	15.1	12.5	21.7	6.5	9.2
親会社株主に帰属する 四半期純利益	9.6	12.0	21.4	11.8	9.4

2023年3月期 連結 第2四半期 進捗



(単位：億円)

主な経営指標	2022/3期			2023/3期		
	2Q実績	実績	進捗率	2Q実績	計画	進捗率
受注高	590	1,366	43.2%	683	1,416	48.2%
完成工事高	592	1,344	44.0%	656	1,433	45.8%
完成工事粗利益	55.8	131.4	42.5%	63.8	143.4	44.5%
完成工事粗利益率	9.4%	9.8%	—	9.7%	10.0%	—
営業利益	15.1	48.4	31.3%	21.7	56.1	38.6%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	9.6	37.5	25.5%	21.4	41.2	51.8%
配当 (配当性向)	—	363円 (78.1%)	—	—	*191円 (74.8%)	—

* 当社は、2022年8月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っており、2023年3月期の1株当たりの配当予想については、当該株式分割後の金額を記載しております。

2023年3月期 第2四半期 受注状況



(単位：億円)

		2022/3期		2023/3期	
		2Q実績		2Q実績	
浅沼組	建築	505	523	18	
	官庁	115	90	△25	
	民間	390	433	42	
	土木	78	109	31	
	官庁	65	65	△0	
	民間	13	44	31	
	建土計	584	632	49	
	官庁	180	155	△25	
	民間	403	477	74	
海外子会社 計		7	51	44	
連結		590	683	93	

— 基本方針 — 浅沼組らしさ(独自性)を深耕させ 「変化に挑戦」

外部環境変化 への挑戦	★ 長期的に縮小する国内建設投資とインフラ・建築構造物の老朽化により 堅調に推移する国内維持・修繕事業投資
	1. 『ReQuality』 リニューアルブランド戦略の推進 2. リニューアル技術の高度化 3. ASEAN地域におけるリニューアル強化
	★ 建設分野における生産労働人口の減少
	1. 協力会社との協働推進 2. DX推進
★ 非財務経営活動(ESG・SDGsなど)による企業評価向上の機運	
1. エコフレンドリーASANUMA21の推進 2. サステナビリティの推進	

目標

2024年3月期に建築リニューアルの営業利益を連結営業利益の35%に

建築リニューアル 計

(単位：億円)

	2022/3期	2023/3期	
	2Q実績	2Q実績	前期比
営業利益シェア	32.2%	28.5%	△3.7P

国内 建築リニューアル

受注高	98	108	10
完成工事高	78	67	△11
営業利益	4.8	1.9	△2.8
営業利益シェア	31.7%	9.0%	△22.7P

ASEAN 建築リニューアル

受注高	7	51	44
完成工事高	8	42	33
営業利益	0.1	4.2	4.1
営業利益シェア	0.6%	19.5%	19.0P

名古屋支店改修PJ

心身の健康に配慮した空間デザイン

建物の利用者の健康や快適性を評価する
「WELL認証ゴールド」を取得
(築30年のオフィス全体の改修での
認証取得は日本初)



循環型の環境配慮ビルとして長期的な
視点をもったデザイン

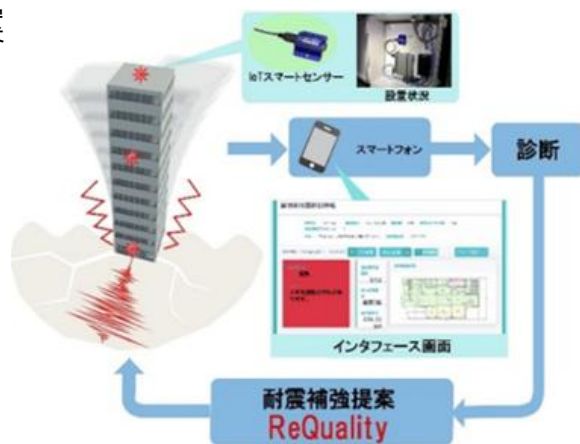
グッドデザイン・ベスト100に選出
(主催：公益財団法人日本デザイン振興会)



耐震補強提案

○地震モニタリングシステム

- ・地震時の建物の揺れを即時に分析・診断
- ・クラウドシステムを活用しいつでもどこからでも建物の診断結果にアクセス可能
- ・地震発生後の建物について耐震調査・工事の必要可否を判断し必要な場合は耐震補強を提案



lotスマートセンサー

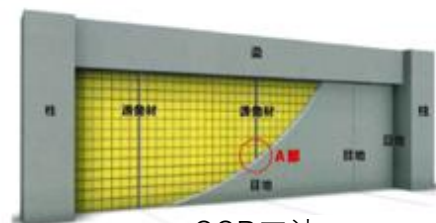


地震の揺れを分析し、通知

長寿命化による低炭素化へ

○長寿命化のための技術力

- ・コンクリートのひび割れを制御（目地へ誘発）し、壁面や床面にひび割れを起こさずきれいな状態を保存でき、長寿命化に寄与（CCB工法）



CCB工法



床CCB工法

- ・CCB工法を適用した壁面の目地にひび割れを分散させる材料（PRS）を充填し、壁面に貼った壁紙へのしわを最小化

PRS 目地充填工法



PRS目地






PRS 目地充填材

(単位：億円)

海外子会社の現況

シンガポール

名 称	取得	事業内容	2023/3期 2Q実績		
			受注	完工高	営業利益
SINGAPORE PAINTS & CONTRACTOR PTE. LTD.	2018年10月	建物塗装・修繕工事	21	14	0.1
EVERGREEN ENGINEERING & CONSTRUCTION PTE. LTD	2022年1月	建物メンテナンス 電気・設備工事	30	28	4.1

<p>建設キャリアアップシステム (CCUS) の推進</p>	<p>○建設業の魅力向上に向けて、建設技能者の処遇改善、キャリアパスの明確化、施工能力の見える化を目的としたシステム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サポート事務局設置期間延長 2021年10月1日～2023年3月31日 ・オンライン説明会実施済み(2021年9月から12月に6回)
<p>浅沼マイスターの推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・協力会社の職長の中から浅沼マイスターとして選任 ・奨励金の授与を行い賃金面からの処遇を改善 ・対象要件としてCCUSへの登録を次年度認定更新より追加
<p>協力会社との研修</p>	<p>○協力会社で構成する弥生会の会員の技術者を対象に研修会を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サステナビリティ基本方針、人権方針、調達方針の説明 ・VRや安全帯による安全研修 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
<p>作業所生産性向上策表彰及び発表会開催</p>	<p>○各作業所における協力会社との協働による生産性向上策を募集表彰、発表会を開催(第4回を2022年10月28日実施) (コスト削減、工期短縮、新技術導入など69編)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

D X 推進委員会の取り組み

① BIM・CIM関連の導入推進

- ・ 導入拡大に向け社員の研修
- ・ 導入対象案件を拡大するための方策の検討
- ・ 設計段階だけでなく施工時における活用拡大に向けた方策検討



3Dスキャナによる既設空間測量

② タブレットを使用した効率化

- ・ 工事写真の整理、一元管理
- ・ 配筋の検査
- ・ 仕上げの検査



タブレットを利用した配筋検査

③ 他社との共同開発

- ・ 建設RXコンソーシアム：ロボット、パワースーツなど
- ・ 共研21：配筋検査

④ 業務の電子化

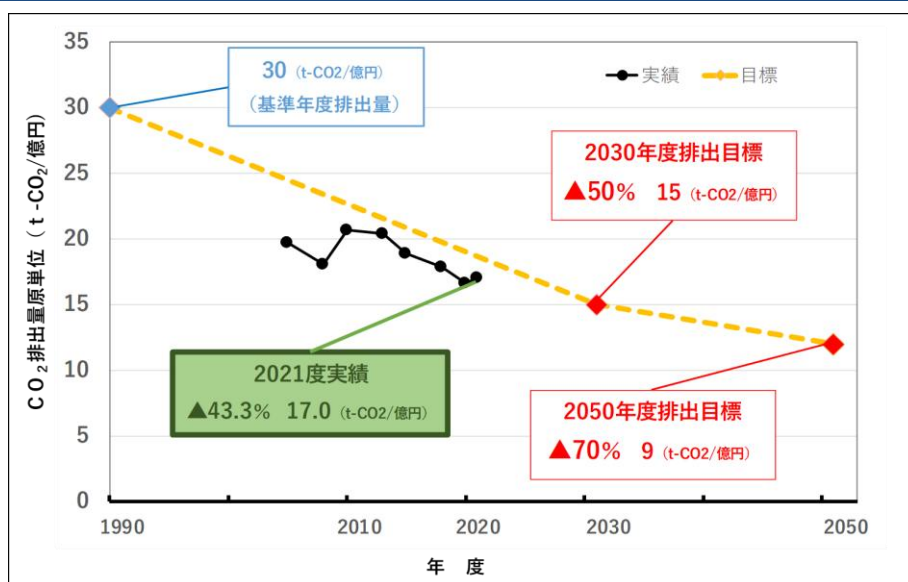
- ・ 契約書、注文書、請求書などの電子化：CI-NETの導入拡大へ
- ・ 建退協の事務手続きの電子化：CCUSとの連携拡大へ

長期CO₂削減目標（スコープ1+2）

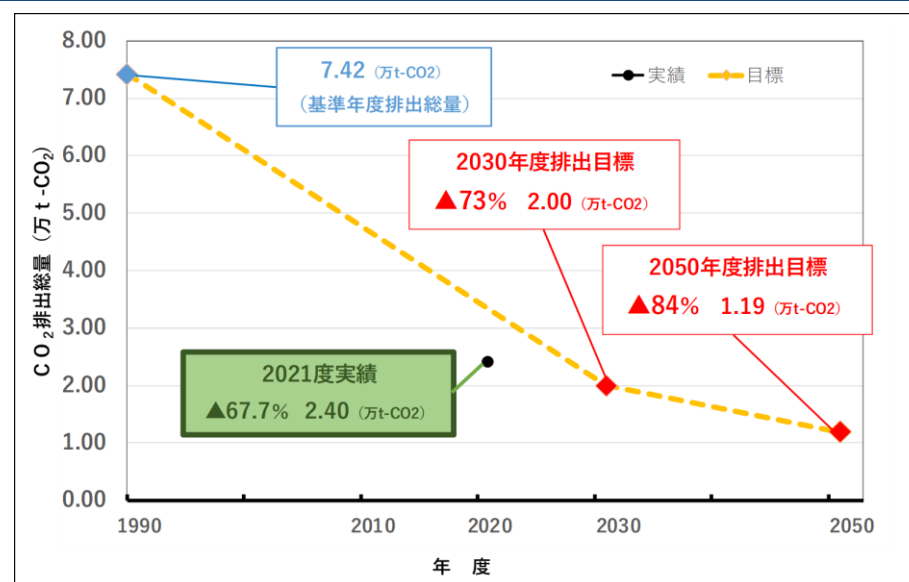
○ 施工高1億円当たりのCO₂排出量を1990年度比で
2030年度までに50%、2050年度までに70%削減」（原単位目標）

○ CO₂総排出量を1990年度比で
2030年度までに73%、2050年度までに84%削減」（総量目標）

CO₂削減の推移



原単位目標（2021年度更新）



総量目標（2022年度より）

スコープ3について

- ・ 算定方法を検討中、今後削減目標の設定の検討に入る予定。
- ・ スコープ3目標設定後にスコープ1+2の目標を再設定予定。

作業所における様々な取り組み

CO2削減

取り組み①

CO2削減率50%の環境配慮型コンクリートを施工に導入



生物多様性の保全

設計施工案件の作業所全てでCASBEE（建築環境総合評価システム）による評価を取り入れ、Aランク評価を50%以上の作業所で獲得を目指す



取組例



生物多様性簡易評価ツール「いきものプラス」を採用し、作業所に隣接する恩知川や緑地等の植樹の選定などを行い、さまざまな環境保全対策に対応

取り組み②

再生可能エネルギー100%の電力を新規着工作業所全てに導入へ



2021年度 564,291 kWh

○「サステナビリティ推進委員会」の主な取り組み

① 環境経営推進に向けた取り組み

環境経営推進に向け、ワーキンググループを設置し技術面から検討
技術発表会での「環境技術賞」創設

② TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）関連活動の推進

気候変動関連の中長期的目標

原単位目標に総量目標を追加（次ページ詳細）

③ 人権方針、調達方針策定

サステナビリティ基本方針に加え、人権方針、調達方針を策定し、HPに開示

④ パートナーシップ構築宣言

取引先や価値創造を図る事業者との連携・共存共栄を進め、
新たなパートナーシップを構築することを、
「発注者」側の立場から宣言するもの。



⑤ その他の検討課題

サステナビリティ経営における「KPI」設定と、中核人材や多様性の確保、
人材育成方針や人権に配慮した施策の策定に向けた検討

ReQuality関連



改修後の名古屋支店外観

グッドデザイン賞を受賞

浅沼組の名古屋支店改修PJ

浅沼組の名古屋支店改修PJ（プロジェクト）が、日本デザイン振興会（JDA）主催の2022年度グッドデザイン・ベスト100に選出された。

築30年の名古屋支店を環境配慮型ビルへリニューアルしたものの、既存躯体を活用し、自然の光、風へのアクセシビリティを高める改修を行うとともに、土や木などの自然素材を最大限活用している。

審査評価では、循環型の環境配慮ビルとして長期的な視点を持って、実践可能なプロセスまで緻密にデザインされていることなどが高く評価された。

2022/10/17 日刊建設工業新聞

WELL認証 ゴールド取得

浅沼組の名古屋支店改修プロジェクトが米国の健康建築性能評価制度「WELL Building Standard（WELL認証）」のゴールドランクを取得したと発表した。築30年以上経過したオフィスビルの全体改修で同ランクを獲得した事例は国内初という。

7月28日付で取得した。W



「心」「コミュニティ」の計画された名古屋支店改修プロジェクトは、WELL認証は人間の健康に焦点を置いた国際的な環境評価システムで、「空気」「水」「食物」「光」「運動」「温熱快適性」「音」「材料」の計

同社は2021年、リニューアル事業ブランドを「Real Quality」名付け、リアルに注力している。そのフラッグシップに位置付けられた名古屋支店改修プロジェクトは、

2022/9/26 日刊建設通信新聞

その他



「変化に挑戦」 浅沼組

浅沼組は、2022年度の技術発表会を開いた。コロナ禍における対応として、大阪本店と東京本店の2会場に関係者が参加し、当日の発表映像や資料を広く社内ネットに公開して情報共有を進めた。

冒頭、あいさつした浅沼誠社長

「現代の中期3カ年計画の2年目で、ちょうど折り返し地点に差し掛かっている。基本方針に「変化に挑戦」を掲げた意味を社員一人ひとりが改めて自分自身に問い掛けてほしい」と呼び掛けた。写真

社員投票と審査によって選定された社長賞などを賞は次のとおり。

- ▽社長賞
 - ▽タワーマンションのフルPC工法での計画と実施。
 - ▽調整池内における泥水推進工の到達施工▽寒冷地の造成工事における工期短縮目的のICT積極活用の施工▽建捨す鉄骨建方の安全性の検討
 - ▽環境技術賞
- ▽優秀賞
 - ▽名古屋支店改修工事における「ReQuality」実現のための構造架構の事例。

2022/8/26 日刊建設通信新聞

性能証明を取得 PRS工法適用拡大へ

浅沼組など14社研究会

鉄筋挿入型ひび割れ制御工法「充填すること、クロス貼り法協会（CCB工法協会）」などの仕上げ層における亀裂あるPRS工法研究会（代表 やしわを防ぐ技術 CCB工企業）浅沼組は、RC・SRC造建物におけるコンクリート躯体の目地充填に使うポルトランドセメント（PRS）の建設材料技術性能証明を取得した。第三者評価機関によるお墨付きを得たことで一層の適用拡大を狙う。

PRS工法は、コンクリート躯体のひび割れを誘発する目地に珪砂とファイバー樹脂を混合して製造したPRSを（7月現在）となっている。

工法研究会の構成企業は、

- ▽浅沼組▽熊谷組▽西松建設
- ▽NIPPON▽飛鳥建設▽大日本土木▽長谷工コーポレーション▽東急建設▽五洋建設
- ▽三井住友建設▽共立建設▽青木あすなろ建設▽松井建設
- ▽奥村組土木興業

の14社

2022/9/2 日刊建設通信新聞

誇れる歴史がある
創りたい未来がある



MEMO

誇れる歴史がある
創りたい未来がある



A stylized human figure in teal with a red dot above its head and a blue square above its right shoulder.

株式会社 浅沼組

2022年11月16日

誇れる歴史がある
創りたい未来がある



お問合せ先

コーポレート・コミュニケーション部
Tel 06-6585-5500 Fax 06-6585-5556
Mail asanuma_ir@asanuma.co.jp